



共同通信



2007年7月20日 132号(342号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://www.koudou.jp/> 振替 01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 32

『思いと時間を子どもたちに』

「一人でも子どもがいるなら始めようじゃないか」。その声に押し出され、神戸多聞教会の教会学校を再開したのは今年の10月。日頃から教会に来ている教会員の子ども1人から活動をスタートしました。「ああでもない」「こうでもない」と悩みながらも半年以上が経ちました。現在平均4名の子どもが集っています。一人も子どもがいない時もありました。そんなときにも休むことはなく教師たちは毎週朝9時過ぎから集まってきます。時に「聖書のお話」もうまくいかないときもあります。そんな時には打ちのめされる思いもしながらもスタッフは前向きに励んできました。ミーティングは何

時間にもなる時もありました。意見がぶつかることもしばしば……。スタッフ一同、たった一人であっても子どもの命に「神さまの愛」という種を蒔くためにはどれだけ多くの「思い(力)」と「時間」がいることかと、あらためて気づかされています。

私自身をふり返った時、様々な場で「思いと時間」を与えてもらったことに気づきました。子どもの時に嬉しかったことは日頃忙しい父親がキャッチボールをしてくれたこと。病気の時、言葉にならない祈りと共に母が一晩寄り添ってくれたこと。時間を忘れて暗くなるまで一緒に遊んでくれた近所のお兄さんお姉さん

がいたこと。そのような思い出の一つ一つが今の私の命を支えているように思います。

私たちの教会学校でも子どもたちに大人たちがどれだけ真剣な思いと時間を捧げられるかという事が問われているように思っています。私たち教会学校のスタッフは全員が完璧な人間ではありません。失敗もする、弱さも持っている人間です。けれども、皆が不器用なりにそれぞれの思いと時間を費やして子どもたちと向き合っています。そして神さまの愛を伝えています。そうして、この教会学校で耳にした「聖書のことば」と経験した「思い出」がいつしかその子どもの命を支える大きな力となる事を願っています。

私はこの5月26日に田中知恵さんと結婚をしまして、神戸多聞教会は6月より彼女をこの教会の教師として迎えました。知恵先生は西宮共同教会で様々な学びをして来られたと言うことで、これから力を合わせ

ていろいろな活動ができていこうと教会員一同楽しみにしています。とりわけ、子ども活動では知恵先生が学んでこられた事を存分に活かして頂ければと願っています。

まだ知恵先生を迎えてまだ一月半しか経っていませんが、知恵先生は早くも子どもたちとうち解けたようです。これは彼女の賜物なのか、精神年齢が近いからなのか……。とにかく、私たちの教会学校は新しい仲間を加えさらに明るく元気が与えられました。送り出してくださった西宮共同教会に感謝しつつ、子ども活動についてはまたいつか良い報告、楽しい報告をする事が出来ればと願っています。

(神戸多聞教会 山本一)

日本基督教団西宮共同教会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮共同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮共同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮共同教会礼拝堂
聖書研究祈祷会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を讀む会	毎月第3火曜日午前10時から	於：西宮共同教会集会室

閉塞感ばかりあり何を言っても無駄、思うこともない
けれど 基本的にどの道筋を行くのがよいか、どんな道があて
、どがどの道行社訓なすて どは抜けて道があるのか、私達は
そんなことができない、私思う

（立岩真也）

死んで埋葬された（埋葬されたとされる）イエスの墓に、「安息日が終わって、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリヤとほかのマリヤとが墓を見にきた」（マタイによる福音書 28章 1節）時、墓は"空っぽ"でした。そこで天から下った"主の使い"から「イエスは死人のなかからよみがえられた」こと、「あなたがたより先にガリラヤへ行かれた」（同7節）と教えられます。更に、その後イエスと出会う"直接"「ガリラヤに行け、そこでわたしに会える」（同10節）と教えられます。という、処刑され埋葬されたイエスの死後のことが"当事者"の間で言い広められます。いずれにせよ、イエスの埋葬された墓が"空っぽ"で、"イエスは死人の中からよみがえった"という"風評"は、もう一方の当事者であるユダヤ教の祭司長・長老たちにとってゆゆしい問題でした。その結果、風評とは別のもう一つの"物語"が"捏造"されることとなります。このもう一つの物語には、加担した兵卒たちに「たくさんの金を与える」などのことがそれらしく書き添えられています。「兵卒たちにたくさんの金を与えて言った。

『弟子たちが夜中にきて、われわれが寝ている間に彼を盗んだ』と言え、「そこで、彼らは金を受け取って、教えられたとおりにした」（同、13節、14節）。

処刑された人の埋葬がそもそも許されるのか、少なからず疑問がなくはありません。そして、埋葬された遺体が消えてしまったことをめぐって、二つの異なった見解が示され、一方は"捏造"ということとしてマタイによる福音書は記述します。このことの実関係はともかく、それぞれの"主張"は真に迫るものがあります。たまたま書き残されることになった言動の中に、真に迫る何かがあらわになったという具合にです。

この"真に迫る"ということでは、イエスが捕らえられて処刑されるにいたるまでのことで登場する人たちの立ち振る舞いにも同じように真に迫るものがあります。イエスはユダヤ教の宗教指導者に捕らえられた後"総督の兵士たち"に引き渡されます。その時の総督の兵士たちとイエスの間に、とりたてて言うほどの利害関係もありませんでしたし、あったとしても考えられません。なのに、全く無抵抗のイエスを"なぶりもの"にしま 3

す。「・・・そしてその上着を脱がせて、赤い外套を着せ、また、いばらで冠を編んで、その頭にかぶらせ、右の手には葦の棒を持たせ、それからその前にひざまずき、嘲弄して『ユダヤ人の王、ばんざい』と言った。またイエスにつばきをかけ、葦の棒を取り上げてその頭をたたいた。こうして、イエスを嘲弄したあげく、外套をはぎ取って元の上着を着せ、それから十字架につけるために引き出した」(同 27 章 27 ~ 31 節)。特別に "危害" を加えているわけではないにしても、全く無抵抗のイエスを嘲弄し、"なぶりもの" にしていることには違いありません。王冠の代わりにいばらの冠、王杖の代わりに葦の棒を持たせ "嘲弄" しなぶりものにします。特別に自分と利害関係がないし、無抵抗の人を捕らえ、よってたかってなぶりものにします、ということをして人にしてしまいます。誰かの一言が引き金になって、それが始まってしまうと、不当であるそのことを止める側には立たないで、どんどん加担してしまうという具合にです。たぶん、マタイによる福音書 27 章 32 節以下、イエスの十字架による処刑に至る過程も、そんな具合に進行していきます。イエスの沈黙は、人々としてのそんな振る舞いをあぶりだして行くというようにも読めます。敵意や悪意が、取り返しのつかない事態を結果的に生み出していくので

はなく、小さな悪意や思い違いでそれが始まってしまうと、それを止める事にはなかなかかなりにくいのです。

そんなことの結果と死人の中からよみがえったイエスは、ガリラヤに現れて「わたしは、天においても地においてもいっさいの権威を授けられた。・・・」と宣言します。しかし、こんな風に宣言してしまうのでは、イエスが生きてその最後の時に沈黙を守ったことが、全く無意味になってしまいます。特別の意味や特別の意図はなかったのかもしれませんが、沈黙の結果、人として生きることの何ごとかをえぐっていたのが、処刑の時のイエスの沈黙だったように思えます。

(菅澤 邦明)

アコーク回一通信(112)

朝、ウチの職場のドアを開け、ふと温度を見ると31度。普段なら空気の入れ替えをするのですが、朝一番に冷房を入れたくなります。

ところで、私、長いこと、「沖縄に青い海、青い空を見に来ました」なんていう人たち、許せん、と思っていたのです。沖縄は、何をするにしても沖縄戦と米軍基地の課題を抜きにしてありえない、という考え方で、それはそれで間違っているとは思っていません。けれども、先日久しぶりに東京に行って、ラッシュ時の電車に乗り合わせると、人々は一直線に歩き、立ち止まって考える時間すらなく、反対方向に歩くことも許されないような光景に愕然としました。これでは、誰か血を流して倒れていても見向きもしないのだろうと思いました。いや、私も、神戸でサラリーマン生活をした経験があり自分でも体験したことですが、あの時代よりももっと人間が無機質になったような気がします。日本の年間の自殺者は3万数千人にのぼるのもその歯車に乗り切れないということではないのだろうかと思わされます。もちろん、これはそんな単純な話ではないことはわかっています。けれども、そのような人々が沖縄の青い海、青い空を見て癒されるとい

うのなら、それでもいい、と思うようになってきたのです。差別するわけじゃないけど、冬の日本海(韓国名=東海)の海とは違いますよ。透きとおりがたが違う、サカナもサンゴも見えませ。で、十分癒されたら、ちょっとだけ、沖縄戦と米軍基地のこと考えてください。その海が血で染まった沖縄戦のこと、その海が米軍の基地になること、そして目先の金ほしさに埋め立てていることを。

昨年は個人的に「論文執筆」というノルマを課して時を過ごしていました。今年は「沖縄戦と朝鮮人」にチャレンジしているのですが、資料や参考文献が散逸して、あ、ただ散らかしているだけなのですが、どうも集中力に欠けるきらいがあります。韓国にも行かなければならないのですが、いつのことになるやら。今回、ちょっと、ダラダラ書いています。そういつている間に「台風4号」がやってきました。935ヘクトパスカルです。沖縄本島、この2年ほど直撃がありませんでした。観光でやってくる人、かわいそうと思っていました。ついでにいうと、台風、いろいろと被害も出るのでありますが必要でもあるのです。昨今、地球温暖化で沖縄周辺海域の温度があが

りサンゴが死滅するという話があります。台風で適度に海水が攪拌され温度が下がるということです。また、多量の雨は水不足の沖縄を潤します。交通機関がマヒすると大変です。バスがストップすると基本的に公的機関は休みです。土日にかけて沖縄では各地でイベントが予定されているのですが、もう早々と中止になりました。県内経済は大幅ダウンです。いや、もちろん、農業や漁業、観光産業などの被害は億単位になることも予測されます。

(二日後・・・) えー、台風、なめてました。ウチの施設、木がいっぱいで、風で葉が落ちます。排水溝に溜まって、ふさいでしまい、あふ

れて建物二階から滝になってしまいました。おかげで、高台にあるのにウチだけ床上浸水みたいになってしまったのです。職員非常召集で後片付けです。我が家のほうも6時間停電し、台風なので窓も開けられず、冷房も冷蔵庫もダメという具合でした。もっとも、ちかごろ郊外型大規模店舗はちゃんと営業していて、我が家もそこへ避難しました。台風あけに新潟で地震との報、みなさんのところはいかがでしょうか。せっかくの夏、長期の休み、くれぐれもお気をつけ下さいませ。

(沖縄 与那原 愛の園 後藤 聡)

『共同ミラクル！！』がまたまた起こりました

「てるてるぼうずてるぼうず～あしたてんきにしておくれ～」この歌をいったい何度歌ったでしょう。今年は梅雨に入るのが遅く、なかなかすっきりしない天気の7月となりました。

みんなが楽しみにしている 星まつり 前日のプレほしまつりでももちろん歌いました。「てるてるぼうずてるぼうず～ほしまつりてんきにしておくれ～」

星まつりの2日前、「あしたはほしまつり？」と聞かれたので、「明

日はプレ星まつりだよ」と答えました。すると、「え～！！ずるい～」と予想外の返事。「プレぼっぼだけほしまつりなんてずるい！」です。『プレ星まつり』=『プレぼっぼの星まつり』と思っていたのです。みんなも参加できることが分かると一安心。輪飾り作りや染め紙、クッキー作り、津門川に飾られた素敵な笹。みんなの星まつりへの期待が日に日に高まっていき、この『プレ星まつり』で最高潮！になりました。後は、お天気を願うばかりです。

そして、当日は天気予報を裏切ったのいい天気。『共同ミラクル』です！みんなの笑顔もキラキラ輝いています。「みてみて～」出会う度にかばんを開いて見せてくれたり、かき氷を食べながら「あっかんべ～」をして色がくっついているのを楽しんでいたり。この笑顔を見るために今日までの準備があったのだと感じさせてくれました。夕方からも例年以上にたくさんの方々が来てくださり、大感動の笹上げを一緒に見守りました。何度見ても感動的なこの瞬間。大きな笹が引き寄せられるようにして空に向かっていく姿に、思わず手を伸ばしてしまいます。みんなの願いと一緒に高く高く上って行きました。

今でも空を見上げると、大きな笹が風に吹かれてキラキラ光りながら揺れています。「ほしまつりたのしかったね」その笹を見上げてつぶやく子どもたちです。

続いては、年長さんたちの大冒険！『宿泊保育』です。すっきりしない天気の上に、なんと台風まで近づいて来ました。どうなるのだろう？と思いながらも準備は進んでいきます。そしてここでも『共同ミラクル』が起こりました！前日に台風は行ってしまい、晴れ間も見えるお天気の当日を迎えたのです。「きのう、てるてるぼうずさんのかぞくつ

くったからだよ！」年長さんが教えてくれました。みんなの願いが通じた！そうとしか思えません。

六甲山の上から海がきれいに見えました。その海を眺めながら、「ここからうみにとびこんだらきもちいいだろうな～」とつぶやいていたり、霧に包まれた時でも、「すごい！くものなかにはいっちゃった～」「（「霧がでてきたね」という大人の会話を聞いていて）え？きりん？きりんどこにでてきたの？」なんて言っていたり。みんなと一緒にいると、何でも楽しくなってしまうから不思議です。仲間っていいな！そんなふうにも思わせてくれました。いつものように出かけて、気がついたら夜で、寝て起きたら朝だった！いつもと変わらない、でも、やっぱりちょっと違う？そんな大冒険を年長さんたちと過ごしてきました。

これからの毎日も、たくさんの仲間たちと素敵な毎日を過ごしていくことができますように！みんなで『共同ミラクル』を起こしていきましょう！！

（上田華子）

私の出会ったいろいろな人たち 2

はじめてアレン・セイの絵本に出会ったのは『おじいさんの旅』(2002、ほるぷ出版)だったと思います。4年前くらいに買って、昨年はまだ訳されていなかった『Kamishibai Man』が出されるなり入手しました。近頃はインターネットによる情報がずいぶん出回っていますので、出版情報も、彼の経歴に関する情報もかなりわかりました。それらのいくつかは、私のホームページ

<http://www.eonet.ne.jp/~yeshibai/index.htm>

の「アレン・セイ」のコーナーに日本語に訳してあります。

いちばん面白いと思ったのは、彼の以下のような経歴でした。

「アレン・セイは1937年に日本の横浜で生まれた。父は韓国人の孤児、上海のイギリス人家庭に育てられた。母は、日系アメリカ人でカリフォルニアのオークランド生まれ、セイが8歳の時に二人は離婚した。セイは不幸にも父と、姉は母と生きることになり家族は分裂する。12歳の時、セイは母方の祖母の所へ送られた。祖母は娘の結婚に賛成ではなかった。彼と祖母の関係はそのようなものだったので、結局彼は学校よりアパートで一人きりで暮らすことになる。この時セイは大変尊敬していたマンガ

家野呂新平の見習いになる。」

このことが、アレン・セイの自伝的小説『The Ink-keeper's Apprentice』に書かれているというので、それを手に入れて、読み始めました。英語が自由にできる人は、黙読すればすむのですが、それほど自由でないものでしょうが、それほど自由でないので、えっちらおっちら和訳して、それを読むということをしています。英語だけでは頭に入らないのです。

野呂新平というマンガ家も知らなかったもので、調べると、国立国際子ども図書館の児童書デジタルライブラリ

<http://kodomo4.kodomo.go.jp/web/ippangz/html/TOP.html>

に2冊ありました。この2冊の絵柄を見てびっくり、現代の人気マンガ家諸星大二郎にそっくりなのです。1949年のものですから、諸星がそっくりなのですね。

そうこうしているうちに今年3月『紙しばい屋さん』と訳されて『Kamishibai Man』の日本版がほるぷから出されたのです。そしてなんと4月、アレン・セイが滋賀県長浜市に出版を祝う会に来るという知らせが舞い込みました。主催者は知人だったのでこれは本人に出会えると考えたので、古本で野呂新平のマンガを探しました。そして1954年の作

品を見つけました。イベントの直前にアレン・セイに出会え、おみやげに野呂新平の古本をプレゼントしたのです。これはとても喜ばれました。

『紙しばい屋さん』はアレン・セイが横浜で見ていた街頭紙芝居の思い出を絵本作品にしたものです。早くに絵本にしたかったようですが、ようやくアメリカでも寿司が普及するなど日本文化が広がって、出しても大丈夫となるまで30年くらい待ったそうです。この絵本は評判になり、今年はエリック・カール絵本美術館な

どアメリカの2カ所の美術館で彼の個展が開かれるそうで大忙し、と彼から送られてきたeメールにありました。

(堀田 穰)

大切な贈り物・津門川 60

“たのしみの川そうじ”

まえの日に、雨がふった日は、川の水が、よごれているし、ごみがいっぱいになっているなあ。と思う日があるけど、そうじがおわったら、とってもきれいになります。こころもきれいに、なります。みんなと、きょうりょくして、きれいにします。でも、公園へいくと、びっくりします。まえのしゅう、そうじしたのに、またすてられています。わたしは、すてている人に、

「こうえんに、すてるなら、ごみばこに、すててください！！」

と、いってやりたいです。さいごま

で、がんばったら、手がよごれているので、

「こんなに、みんな、つと川のために、こんなに、がんばって、くれてるんだ。」

と、おもいました。一ばんはじめに、見たときは、

「なに～！このかわのきたなさは！！」

でもいまでは、

「一ばんはじめより、おちついた。」

と、おもいます。わたしは、にしのみやの人じゃないけど、この、ようちえんの子だからがんばってます！！川

そうじは、とっても、おもったより、
とってもたのしいです

(教会学校 小学2年 高島真織子)

私は、つと川掃じが大好きです。毎回毎回楽しみにしています。けど、雨などで出来ない時や、土曜日に雨が降って水が多くて出来ない時は、雨にうたれてでも、したいくらいです。

なぜかという、つと川掃じはたくさんの人達が来るからです。「先月来ていた人が、来てない」という事もありました。けど、みんながいと掃じ後の昼食がより楽しく食べれていいなあと思います。

そして、毎回流れてくるゴミにもきょうみを持っています。普甬に流れてくるゴミは、カン、ビニールぶくろです。たまに自転車、キックボード、ジーパンなどが流れて来ます。

それを見て、「なんどこんな所に捨てるんだろう」と思います。まだ使える物は、ようち園で洗っておいておきます。

こんな事をする人達を思うと、つと川がかわいそうに見えます。でも、これからも掃じを心がければ、つと川もよろこんでると思います。

(教会学校 小学4年 高島佳乃子)

の量が毎回多かったです。中でも、一番多かったのが、カンでした。これは、ゼツタイポイすてだと思ひます。

これは、川を汚すことです。その人は、きつとごみ箱に捨てるのがめんどくさいからだと思ひます。でも、鮎や鯰のいる川なので、ポイすてしないでほひいです。道のほうも、大へんです。タバコはもちろん、犬(猫)のウンチもとるからです。溝の中、公園の植木の中、川のがけまでそうじをしました。まだやり始めて一年ちょっと(やったのは8回)しかしてほひいのでこれから続けたひいです。

(教会学校 小学4年 高島佐代子)

川掃除の途中、かもやこい、ときにはさぎまで・・・とにかくいろいろなものがでてきました。掃除の時、ごみ

2007年8月 あんなこと こんなこと...

- ・7月 28日(土)午後3時~、“映像MATSUTANI 1完成記念上映会 & 松谷武判トーク会”
- ・8月は早天祈祷会、読書会、聖書研究祈祷会はお休みです。

にしきた商店街...

- ・7月 21日(土)午後1時~午後2時、“魔笛を聞こう!の会”
- ・7月 21日(土)午後4時~午後5時半、第1回にしきた音楽祭ストリートミュージシャン コンテスト入賞者コンサート“Music is Cool”
- ・7月 27日(金)オペラ「魔笛」公演記念イベント
午後2時~、コカリナ体験・飲食ブース
午後4時30分~、「にしきた魔笛隊」パレード出発式
午後5時~、「前夜祭だよ、笛好き人間大集合」
- ・8月 1日(日)午後12時30分~“津門川掃除”

アートガレーヂ

- ・8月7、21日(火)野菜市

関西神学塾

- ・7月、8月は関西神学塾はお休みです。
- ・田川建三『新約聖書・訳と註 第3巻パウロ 書簡その1』7月発行。購入をご希望の方は教会事務所(菅澤)まで。
- ・8月日20、21日「教会と聖書」編集委員会との合同合宿

7月21日(土)午後4時~5時30分

第1回にしきた音楽祭 ストリートミュージシャンコンテスト入賞者コンサート “Music is Cool”

今年4月に開催されたコンテストの入賞者3組がアクタの円形デッキに再び集結します。コンサートの最後はおなじみ「春の唄」を出演アーティストによる演奏でお届けします!
場所:アクタ西宮円形デッキ 雨天時は西宮公会堂チャペルホール

7月28日(土)午後3時~

MATSUTANI 1完成記念上映会&松谷武判トーク会

現代美術家、松谷武判氏のパリ在住40周年を記念して作られた映像「MATSUTANI 1」の記念上映会、トーク会が行われます。西宮、東京、屋島で連続して行なわれるイベントの第1会場回目の会場が西宮公会堂チャペルホールです。松谷武判氏は1937年大阪市阿倍野区生まれ。1966年にフランス政府留学生選抜第一回毎日美術コンクール(京都市美術館)でグランプリ受賞以後、現在までパリを拠点に活動を続けています。現代美術の普及・振興に貢献したとして西宮市民文化賞を受賞し、現在パリと西宮(丸橋町)に住まいと工房を持ち創作活動に励まれています。

場所:西宮公会堂チャペルホール 参加費:2000円

映像上映:「MATSUTANI 1」(15分)

アーティストトーク:松谷武判「パリ40年」(20分)

トークセッション:松谷武判:松谷武判を囲んで「映像とアート」(20分)~ 歓談

教会学校から

《7月の活動報告》

7月1日(日)

作って遊ぶ

”スライム作り(星まつり用)”

7月8日(日)

作って食べる

”カキ氷を作って食べる”

7月15日(日)

ちょっといいこと

”プール遊び”

7月22日(日)

キャンプ・ソングの練習

7月29日(日)

キャンプ・ソングの練習

《8月の活動報告》

7月30日(月)～8月1日(水)

共同子ども能勢キャンプ

8月4日(土)～8月8日(水)

沖縄キャンプ

8月12日、8月19日は教会学校は夏休みです。

8月27日(日)

お土産&お土産話パーティー

今月のあ・そ・び “セミの羽化”

晴れ間が見えるようになって、セミの鳴き声が、幼稚園の庭にいても、教会の事務所にいても、礼拝堂にいても聞こえてきます。ジャージャー、シャーシャーなっているのはクマゼミです。大阪市立自然史博物館で「世界のセミ展」が開催されていて、子どもたちと出掛けました。クマゼミの卵、幼虫、羽化までの様子を紹介するビデオ、アジア各地のセミの標本とそれぞれの鳴き方が聞けるコーナー、日本各地のセミの分布などが楽しめる“世界のセミ展”です。で、ちょっとびっくりして、ちょっと感動したのは大阪市の鞆公園で、2005年と2006年に集めたクマゼミとアブラゼミの抜け殻がビニール袋に入れて積み上げられていた様子です。表示によれば、2005年はクマゼミが14539匹、あぶらぜみが16598匹、2006年はクマゼミが6741匹、アブラゼミが10233匹だったとの事です。鞆公園のセミの数にも驚きますが、いろいろ手を尽くして集めたであろう苦労にも敬意を表しました。

クマゼミの羽化する様子を、今年になって3回も見てしまいました。その一回目の第一発見者はいさむくんでした。いさむくんがそのことを教会事務所に報せてくれたのが始ま

りで、その日のうちに同じ場所で少しずつ時間を置いて、3匹のクマゼミが羽化しました。その日の最後のクマゼミの幼虫がビワの木に登り始めたのは、午後7時少し前でした。8時に読書会が終わって、ビワの木のクマゼミのところに戻ってしばらくして羽化が始まりました。道路に面したその場所を、買い物帰りだったり、帰宅中だったりの顔見知りの方が通り過ぎました。立ち止まって声をかけてしまって、しばらく動けなくなった人や、結局クマゼミが羽化し終わるまで付き合うことになってしまった人もいました。という、とりとめのない時間ではあったのですが、クマゼミの羽化に付き合った誰も無駄な時間を過ごしたのではなく、納得してその時間を過ごしていたように思います。

その後、7月16日幼稚園の子どもたちの六甲山で宿泊保育の時、7月18日の教会事務所入り口でクマゼミの羽化の様子などを見ることになりました。さけた背中からゆっくり時間をかけて体の3/4くらいを出し、しばらくじっとして体勢を立て直しすっぽり体を出してしまう動作、その後徐々に広げていく緑に近い羽の美しさは、羽化のその時にしか見ることはできません。

まいのなんでも案内

おはようございます。ただいま締め切り当日の早朝です。当然(?)徹夜明けです。夜中からイラスト描き始めたのに全然描けなくて・・・パソコンで描くのは難しいです。一体何枚ボツにしたことか。そろそろ二十歳も終わるし、お肌も曲がり角を過ぎて、身体もそろそろ徹夜ができなくなってきているのに、と自らの状況を省みると非常にせつなくなってきました。何より眠い。まあ全てはタイミングが悪いわけなんです(締め切りとテストとゼミ発表が立て続けにやってくるという何かの試練のようなスケジュール)。これを書きあげてしまえばひと段落着くので(とは言っても今日も授業)もうちょい頑張ります。最近こんなのばかりで本当にごめんなさい。見苦しい真似はできるだけしたくないんですが・・・。

というわけで、京都らしく祇園祭の宵山も堪能しまして、きちんと浴衣で屋台の色んなものを美味しくいただきまして(去年より人が少なくて歩きやすかった気がする)最早夏休みですね。私、これだけ切羽詰った状況ですのに、一足早く夏休み気分を満喫するかのごとく本屋に行っしまい、つつい散財してしまいました。『図説・激闘 ローマ戦記』な

んていうちょっと恥ずかしいものにも手を出したり、梨木香歩さんの『村田エフェンディ滞土録』が文庫落ちしてるのを迷わず買ったり、あと、現在進行形で連載が続いてて、あたしが単行本を買ってる唯二の漫画の新刊が二作とも出ていたり、何やら誘惑の多い本屋でした。そしてその誘惑にことごとく負けてしまったという。バーゲン行けてないからそのためにお金貯めところと思ったのに! 「服より漫画」か! 「色気よりオタ気」か! いや、オタとかいうほどでもないごく普通の少女マンガですけどね。というわけで本日はその片方を紹介しましょう。由貴香織里『ルードヴィッヒ革命』:

由貴香織里さんの絵は本当にキレイです。少女マンガなもので、好き嫌いが分かれるところではあると思いますが、私には超好みです。『天使禁猟区』とか『伯爵カインシリーズ』とか、これまで書いてらっしゃるんですが、コテコテのヨーロッパコスチューム物と、現在のヴィジュアル系を混ぜた感じの絵がすごいのです。読んでもと何だかドレスが着たくなります。で、『ルードヴィッヒ革命』。まず、今は連載になってしまったので大きなストーリーが展開されてますが、最初は読みきりの連作として

作られたので、一話完結型だったんです。で、その一話一話がグリム童話のパロディになっている、と。そもそも、「昔話において王子様の扱いがひどすぎないか？」というコンセプトで始まったお話なので、逆手を取って主人公は王子。しかも超ワガママで派手好きで美形ロン毛のドS。彼がお妃候補を探す旅に出て、色んなお姫様と物語を作り上げるわけですが、もームチャクチャ。白雪姫は超腹黒いし赤頭巾は壊れちゃうしシンデレラは足のサイズ27センチだしお姫様いっぱい死ぬし……。でも、元の話を知っていると、面白い。「本当は怖い」とか何とかというのが一時期流行りましたが(しかも「怖い」というより「エロい」もしくは「グロい」といった印象でしたが)グリム童話なんて何回も編集されているので、何が「本当」なのかはいちがいに言えないと思うんですよね。まあもちろんこの漫画は意図的にムチャクチャにしてあるので、何回目の編集でもこの話が伝わったことはありえないわけですけど。でもいいんです、おもしろいから。そういえばドイツには「グリム童話」、フランスには「ペローの昔話」があるのに、日本には折角たくさん昔話があるのに、定本がないなあというのはずっと気になっていて、そろそろできてもいいんじゃないかと思います。勝手に。

と、話がそれましたが、なかなか楽しめる『ルードヴィッヒ革命』。皆様も、機会があれば是非是非読んでみてくださいませ。ちなみに今回のイラストは誰でもいいから王子っぽい人を書こうとした結果の失敗です。女の子の方が描きやすいです。では、良い夏をお過ごしください

(高橋 舞)

つとがわ 編集後記

16日の新潟中越沖地震の詳しい様子が少しずつ解ってきました。地震の規模(M6.8 震度6強)などから、相当の被害が予想されましたが、極地的には大きな被害になっているようです。少しずつ解ってきた被害の中で、柏崎刈羽原子力発電所の被害は大きいようです。被害のことを釈明したりする言葉が"のようです"だったり"たぶん"だったりするところが、高度な技術を駆使して建設されたはずの原子力発電所の地震の被害の説明としては不自然なのです。ひょっとしたら、見た目の"外装"は堅牢に作られている施設の内部は、全く堅牢と言うわけには行かなくて、想定外の被害になっているのかもしれない。(K)

年長の子どもたちと六甲へ宿泊保育にいきました。久しぶりの山登り 登りながら振りかえる景色や道端に咲いたたくさんのあじさいがとてもきれい 風も気持ち良くて、自分の山登り好きを改めて感じました。朝の散策では目をつぶって野鳥のさえずりに耳を傾け、とても素敵な時間を過ごしてきました。(Y2)

子ども達がセミの脱け殻を集めています。その皮をまとったセミの幼虫が羽化する前に木に登っていく場面に出会いました。きっとじぶんからは見ることのない場面...そんな貴重な場面を与えて下さったことに感謝します。そして宿泊保育に行った時に羽化する場面に出会ったのです!あのキレイな色につい見とれてしまいました...(N)

セミの羽化を見る機会に出会いました。何年か前に教会学校の夏のキャンプで抜け殻から抜け出た後は見た事はあったのですが、その瞬間は初めてで、かなり大興奮!こんな機会はもうないから、と30分以上そこに立って見続けました。羽化したてのエメラルドグリーン似た薄緑色の羽はなんともいえず綺麗です。セミに夢中になっているとまたまた羽化に出会いました。夕方の公園、お散歩しがてらぜひひです (I)

津門川沿いの七夕の竹、その日保育園で"なつまつり"をしたこともあって、「あっちにもなつまつり・あそこにもここにもなつまつり」と大興奮だった孫。本物をみせてやってほしいとの願いがかなって七日の夕方母親と共にほしまつりにやってきた、竹があがった瞬間の顔、花火の連発に見入る顔、最高の体験だったようだ。幼い頃から津門川が好き。いつも覗き込んでいる。魚にもエールをおくっている。「なつまつり」が片付けられた川を見て「おじいちゃん また ながつ はいて かわそうじせなあかんぞ」何で知ってる?見たことはないはず。「おばあちゃんは なんて かわにはいってそうじせーへんの?」(J)